

# 波及事故防止にとって重要なことは？

保守点検・更新が重要です。

高圧受電設備は、長期間使用すると経年劣化により機能や性能が損なわれ、故障や不具合が起こり、波及事故につながる場合があります。それを防止するためには、**定められた周期・回数にもとづいて適切な保守点検を確実に行わなければなりません。日常巡視や月次点検に加え、停電をとまう年次点検が必要になります**ので、電気主任技術者と十分な調整を行ってください。また、設備の健全性を確保するために、適切な時期に更新することも必要です。機器の使用状況、設置場所の環境による劣化の度合いや保守・点検の状況等を考慮し、電気主任技術者の助言等をもとに更新時期を決定してください。

## 高圧設備の各機器の更新推奨時期(参考)

※高圧受電設備の施設環境や、機器の使用状況によって更新時期が異なります。

柱上気中開閉器 (PAS)	屋外用:10年または負荷電流開閉回数200回 屋内用:15年または負荷電流開閉回数200回 GR付開閉器の制御装置:10年	変圧器	20年
高圧CVケーブル	15年((一社)日本電線工業会調べ)	高圧進相コンデンサ	15年
高圧真空遮断器	20年または規定開閉回数	その他高圧機器	10~20年
高圧気中負荷開閉器 (LBS)	15年		

参考:(一社)日本電機工業会「汎用高圧機器の更新推奨時期に関する調査」報告書(平成元年9月)

## 波及事故を防止するためには…?

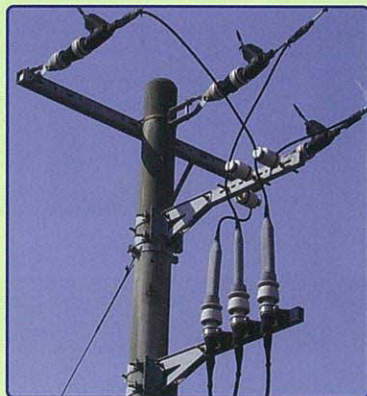
高圧受電設備で事故が発生しても、配電線への波及事故に至らないように、区分開閉器には**GR付き高圧交流負荷開閉器(地絡継電装置付き高圧交流負荷開閉器)**を取り付けることが有効です。

GR付き  
高圧交流負荷開閉器を  
取り付けましょう。



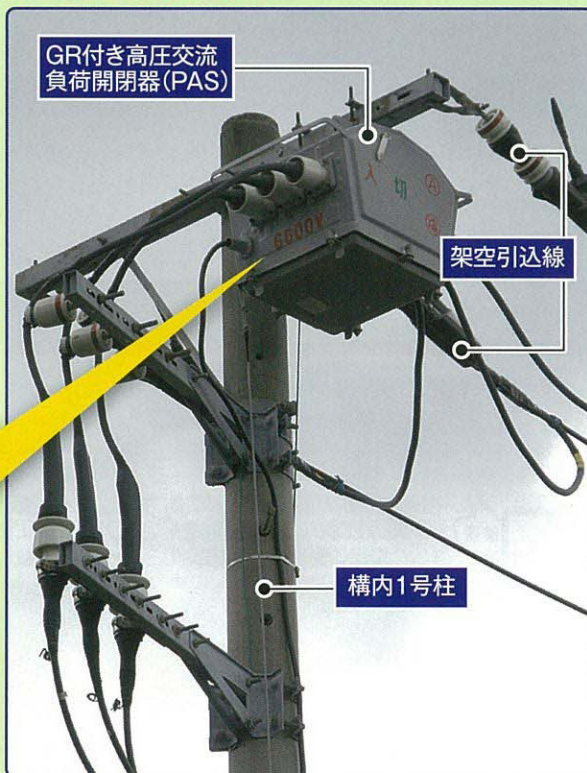
## GR付き高圧交流負荷開閉器(PAS)の取り付け

取り付けられていない例



架空線の  
引込例

取り付けられている例



TOPICS!

カラスの  
営巣に注意!

春頃になると、区分開閉器の上部に、カラスなどが巣を作ることもあります。巣を発見した時は電気主任技術者にご相談ください。